

## 救急車の有料化のニュースを見て

深谷市立川本中学校 2年 福島 雄太

ここ数年、特にコロナが流行した頃から救急車の稼働率が高くなっていると感じる。この夏休み中も遠くや近くで救急車のサイレン音をたくさん耳にした。連日の猛暑で熱中症患者の増加が要因だろうと想像するが、数ヵ月前に見た救急車の有料化のニュースで救急医療の現状が危機的状況にあることを知った。

総務省消防庁によると、昨年一年間に全国の救急車の出動件数は約七百六十四万件で、約四.一秒に一回程度の頻度で全国のどこかの救急車が出動している計算になる。海外では有料の国も多いが、日本では無料で救急車を利用でき、こうした救急医療体制の整備は税金によって賄われていて、一回の出動で約五万の費用がかかるという。一年間でどれだけの税金が使われているのかが分かる。

救急車の有料化は、不適切な利用を減らし、救急隊員の負担を軽減し、真の緊急を要する患者への迅速な対応を可能にするメリットがある一方で、個人の経済的負担の増加で緊急を要するケースでも利用をためらってしまう懸念、貧富による命の格差の発生、管理・運営の複雑化といったデメリットも伴うということも考えなければならないとニュースで伝えていた。節税対策からみれば、救急車の有料化で不適切な利用の抑制ができれば税金を効率的に使うことが可能になるかもしれないということになる。

僕は二年前に二度も救急車を呼んだ経験がある。その時は痛くて苦しく一一九番をかけたが、搬送先の病院で症状は落ち着き、その日に帰宅できた。つまり、軽症だったわけで有料化されていれば支払わなければならないケースになる。あの時、救急車を呼んだことが何だか申し訳なくて今でも後ろめたく思っているのだから、有料化してたら恐らく快く料金を払っていたと思う。人の命を救おうと訓練された救急隊員が救急車で目の前に来て応急処置をしてくれた時に得られた安心感は忘れられないし、とても感謝しているからだ。

僕は数日前にテレビで富士山救護所のドキュメント番組を見たが、救護所では診察代や薬代は無料だった。でも『利用者の善意箱（協力金）』が設置してあるのを見てヒントを得た気がする。救急車の有料の支払う額を高いとみるか安いとみるか、賛成・反対の意見は人それぞれ違うと思う。ただ僕は、自分が利用し、お世話になった救急車や救急隊員が管轄されている市の消防本部にお礼の気持ちが届けられるシステムができたらいいなと思う。もし『利用者の善意箱』みたいなものが設置されたら感謝の気持ちを投入したい。

自分の身の回りの救急医療体制（救急車の出動）が税金で賄われていることを理解し、安心して公平に運行できるように、安易な利用は絶対しないで、正しい知識を身につけ、適切な判断をすることが大切だと改めて考えさせられた救急車の有料化のニュースだった。